

「天気」の内容についてのアンケート

現代の気象学は長年にわたって培われてきた基礎のうえに、人工衛星や大型コンピューターに代表される最新の技術が導入されて、かつてないめざましい発展をとげつつあります。そして現在進行中の GARP に象徴されるように研究活動は国際的になり、全地球規模の観測が国際協力のもとにおこなわれようとしています。一方、災害や環境問題、食料問題などにみられるように、経済的成長を続ける今日の社会は、「大気」に関連した多くの問題を抱えています。

学問の飛躍的な進歩、その国際交流の活発化、またそれに対する社会的要請の多様化のなかで、気象学の関係する分野も拡大し、当学会についても研究発表の内容や従来気象庁関係者が大部分を占めていた会員の構成にもかなりの変化がうかがえます。

当学会をとりまくこのような情勢の下で、機関誌「天気」には、たえず時代の動向に即応した、会員相互の情報交換の場としての、重要な役割が課せられており、私たち編集委員一同、本誌の内容の充実をはかるべくつねに努力しているつもりです。

これにはもとより、会員各位のご理解とご協力が不可欠であることはいまでもありませんが、幸い本誌の改善に関して、積極的なご意見を、いままでも少なからずいただいております。また編集委員会としても機会あるごとにより多くの会員の方々のご意見をうかがえる方策を考えており、最近では昨年秋の大阪での大会の際にも地区委員の方を中心にお集りいただき本誌についてのいろいろの要望を述べていただきました。

編集委員会ではこのようなご意見をもとに天気の内容の充実をめざして具体的な改善案を検討中ですが、現状の編集委員会の体制の中ではすぐ壁につき当たり思うにまかせません。そこで財政的なワクを拡大するために4月号より広告を掲載（これは情報としての意味もあります）し、また非常勤ながら専任の人を備い編集体制の強化をはかっております。また改善案の実施に当っては原稿のストックを作るために相当の準備期間をおく必要もあります。

しかし、なによりも会員各位が望んでおられることがらを適確に把握したうでないと、いかなるプランを立てても机上の空論に終わってしまうおそれがあります。そ

こで以下のアンケートに対してお答えいただくとともに、できるだけ積極的なご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

なお「天気」充実のための改善案として次のような意見が編集委員会に寄せられています。

○「解説」について

「解説」を次の2つのカテゴリーに分けてはどうか

1. 各分野の最近の動向を解説するもので多少難解になるのは止むを得ない
2. 啓蒙的ないしは初歩的な解説のできるだけ平易な内容のもので場合によっては連載型式をとる

○「論壇(仮称)」の新設について

気象ないしはその関連分野についての学問上の方法論などについて会員が建設的な意見を発表しあう場としてこのような欄(1号2頁程度)があったらよいという意見がありますが、あなたはどのようにお考えですか。ときには、この欄を使って特定のテーマについてのキャンペーンなどをおこなうことも考えられます。

○「学界ニュース」欄の新設について

組織や個人の記事、行政的なニュース、技術的インフォメーション、研究プロジェクトの動向など、新刊リストや新製品紹介なども含む。このような情報を5行くらいにまとめて記事にしてください。

アンケート実施要領

1975年1月～12月号について次のことに回答して下さい。回答には綴込みハガキを使用し、7月末日までにお送り下さい。

1. 難易度について

1a. 解説、質疑応答、用語解説、シンポジウム記事の年間の平均値をアンケート用紙の表の第1項(列)に次の記号で書いて下さい。

非常に難しい(A)、難しい(B)、丁度よい(C)、易しい(D)

1b. 非常に難しかったものを別表(1)の記号を用いてアンケート用紙の表1の第2列に書いて下さい。

2. 1月号～12月号の中であなたの読んだものを別表(1)

の記号を用いてアンケート用紙の表の第3列に書いて下さい。ただし、“海外だより”“本だな”は読んだもののパーセントだけで結構です。

3. あなたは解説にどの分野のものを望んでいますか、別表(2)を参考にして具体的に書いて下さい。
4. 前記の改善案の中の“論壇の新設”，“解説を2つに分けること”も含めて，将来の“天気”をどんな内容にしたらいいかの意見をお聞かせ下さい。またどんな企画を希望しますか、できましたら具体的に書いて下さい。
5. アンケート用紙の表紙に下記のことが書かれていますので，該当するところに○印をつけて下さい
- (i) 会員の種別 B A 年齢 歳
- (ii) 職種 研究者（基礎，応用），高・中・小校教師，大学生，気象技術者（気象庁，その他）その他（ ）

別表 (1)

a. 解説

- a-1 第14次南極地域観測に参加して (1)号
- a-2 気候統計業務の現状の問題点 (1)
- a-3 気候変動論の展望 (2)
- a-4 予報作業一年生の見たところ (3)
- a-5 季節予報事始め (4)
- a-6 成層圏微量成分の高度分布 (5)
- a-7 大規模大気擾乱のスペクトル解析 (6)
- a-8 台風予報の現状について (6)
- a-9 気象じょう乱と富士山レーダーによる降水 (7)
- a-10 太陽系惑星科学の可能性 (8)
- a-11 米国における静止衛星資料の利用の一端 (9)
- a-12 統計的，力学的大気モデルによる季節変動の研究 (10)
- a-13 気象解析について (10)
- a-14 植物の生長と気象 (11)
- a-15 新装なったアムンゼン・スコット南極点基地見聞記 (11)
- a-16 分散性波動の性質について (12)
- a-17 気象資料自動編集集中継装置 (ADESS) (12)

b. シンポジウム

- b-1 湿度計に関するシンポジウム (2)
- b-2 雨量予報に関するシンポジウム (3)
- b-3 冬の低気圧に関するシンポジウム (4)

- b-4 山の気象シンポジウム (5)
- b-5 構造物の耐風特性に関するシンポジウム (6)
- b-6 気候変動シンポジウム (8)
- b-7 東支那海低気圧についてのシンポジウム (9)

c. 用語解説

- c-1 Thermal mapping (1)
- c-2 レイズド・ミニマム (1)
- c-3 Stormfury-Pacific (2)
- c-4 亜熱帯前線 (subtropical front) (2)
- c-5 プーメラン気球 (3)
- c-6 UDC (3)
- c-7 MONEX (5)
- c-8 DDA (5)
- c-9 大気電気 (6)
- c-10 フィトンチッド (6)
- c-11 プライトバンド (7)
- c-12 SINAP (7)
- c-13 群落微気象 (9)
- c-14 環流型 (9)
- c-15 上空エコー (10)
- c-16 MDS (10)
- c-17 OSSE (11)
- c-18 Comma-shaped clouds (11)
- c-19 Occluded frontogenesis (12)
- c-20 Climatic impact および CLAP (12)

d. 質疑応答

- d-1 水蒸気の凝結による潜熱放出の効果が，力学的不安定に及ぼす影響 (1)
- d-2 フェーンは暖いのおおしはなぜ寒いのか (1)
- d-3 酸性雨とは何のことですか (2)
- d-4 海風前線と汚染物質 (3)
- d-5 気象衛星に積まれている放射計の利用について (4)
- d-6 梅雨入り，梅雨明けはどうして決めるか (5)
- d-7 イギリス・ドイツの長期予報・気候変動について (7)
- d-8 地形の影響による大雨について (7)
- d-9 サンシャイン計画について (8)
- d-10 maximum entropy method について (9)
- d-11 模型風洞実験について (10)
- d-12 大気電場はどのようにして測定するか (12)

別表 (2)
 気候, 大気大循環, ブロッキング, 大気振動, 季節風, フロント, ジェット, 熱帯気象, 台風, 積雲, 晴天乱流, 集中豪雨, 境界層, 雷, 霧, 大気電気, 放射, オ

ゾン, 雲物理, 気象測器, 遠隔測定, データ処理, 生気候, 人工気象, 水文気象, 農業気象, 気象災害, 大気汚染, 気象教育, 惑星気象, 天気予報, 航空気象, 計算スキーム, その他

「天気」投稿規定 天気編集委員会

1. 「天気」は日本気象学会の機関誌で、年12回発行される。内容は気象に関係ある (1) 論文・短報 (2) 解説および総合報告 (3) シンポジウム記事 (4) 学会だより (5) 通信欄 (討論意見) などである。
2. 投稿資格：原則として本学会員とする。
3. 論文の受理：論文は未発表の原著論文に限る。短報は速報性を重視し小論文のほか他雑誌に投稿した論文は要約、未完成ではあるがとくに速報を要する研究成果の概要等とする。通信欄は会員の学会に対する要望・意見、論文に対する質疑・意見のほか気象に関係ある諸問題についての投稿とする。論文等は東京都千代田区大手町 1-3-4, 気象庁内, 日本気象学会天気編集委員長河村 武宛に送付し, 天気編集委員会が受理した日をもって論文受理日とする。
4. 編集：「天気」の編集は天気編集委員会で行なう。編集委員会は事情により原稿の字句の加除訂正を行ない、あるいは著者に改稿を求め、また内容の如何によっては原稿を受理しないことがある。印刷の順序は原則として受理日順とするが、編集の都合によってはその順序を変えることがある。
5. 執筆要領
 - イ) 原稿の長さ：論文は原稿用紙に和文で横書きにし、長さは図表を含め、原則として印刷頁で8頁以内とする。短報・通信欄は原則として1頁以内とする。(400字詰原稿用紙約5.5枚が印刷1頁に相当)。なお投稿の際は原稿とともに、送り状を付け、コピーも同封すること。
 - ロ) 表題：論文、短報、解説のはじめに題名(英訳付)、著者名(ローマ字付)所属機関名を付記する。
 - ハ) 要旨：論文には和文400字以内の要旨をつける。
 - ニ) 図表：原図をトレーシングペーパー、白紙または方眼紙(青)に墨で明瞭に書き、図番号をつけ、まとめて原稿の末尾に重ねる、図番号、表題および説明文(いずれも和文)は別に原稿用紙に記して本文の末尾に付ける。原図の大きさは刷上りの3倍以内とし、線の太さ、文字の大きさは、印刷の際の縮尺を考慮してトレースすること。図

の掲載場所を指示するため、本文中でその図が出てくる箇所の右横欄外に「第1図挿入」などと朱書すること。表も番号および表題をつける。なお、表は本文中に挿入して書いてもよい。図表の番号は第1図、第2表などとする。詳細は本誌16巻4号を参照のこと。

- ホ) 数式は上下に一行ずつあけて明瞭に書くこと。
- ヘ) 脚注はなるべく用いないこと。
- ト) 文献：著者名のアルファベット順に並べ、論文の末尾につける。次の例に示すように、論文の場合は著者、年、題名、誌名、頁の順に並べ、単行本の場合は、著者、発行年、書名、出版所、引用頁の順に記す
 Reynolds, S.E., M. Brook and M.F. Gourley, 1957: Thunderstorm charge separation, J. Meteor., 14 426-436.
 山本義一, 1959: 大気輻射学, 岩波書店, 134-135
 吉田順五, 1959: 気象と積雪, 天気, 6, 191-194
 本文中での引用の仕方は次の例による。
 ……応力を測定した研究がある (Dorm, 1953) ここで Munk (1947) のいう臨界風速について…
6. 別刷：論文、短報、解説、総合報告、シンポジウム記事の別刷は30部まで無償、それ以上は実費とする。要求部数を原稿提出時に申し込むこと

天気編集委員

編集委員長 河村 武 (理事)
 編集委員 朝倉 正 (理事)・犬 銅 章 治・
 岡本利次・清水喜允・住 明正
 関根 勇八・竹田 厚・滝川雄壮
 巽 保夫・田中正之・樋口敬二
 廣田 勇・本母利広・中山 章
 新田 尚・三谷 一郎

編集書記

地区編集委員

小平百合子
 北海道 八田 琢 哉・菊 地 勝 弘
 北 宇田川和夫・田 中正 之
 東 丸 山 栄 三
 関 東 川 鍋 安 次・中 島 暢 太 郎
 西 藤 尾 勝 巳・小 島 隆 義
 九 沖 糸 数 昌 丈